



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

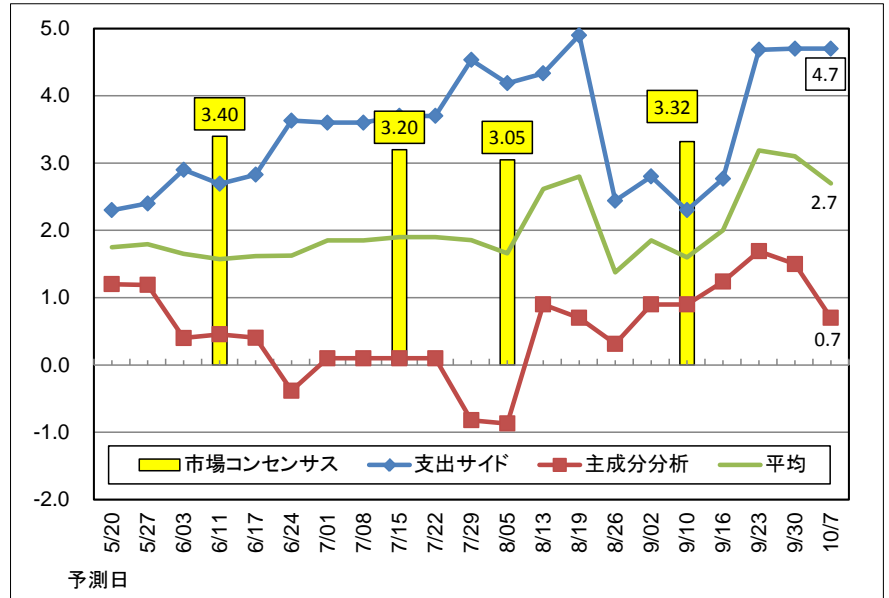
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年10月7日)

ポイント

- ▶先週(9/30-10/4)に更新されたデータは、民間住宅、民間企業設備、民間在庫品増加、公的在庫品増加、雇用者報酬及び主要デフレータの予測に影響を与える。
- ▶8月の建設工事費予定額(居住専用)は2ヵ月連続の前月比プラス。資本財出荷指数は2ヵ月連続のプラス。最終需要財在庫指数は2ヵ月ぶりに低下した。
- ▶日銀9月短観の販売価格判断DIを業種別にみると、卸売、小売が2008年9月調査以来プラスに転じた。景気回復を背景にデフレ脱却が緩やかに進みつつある。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.7%と予測する。民間企業設備と公的在庫品増加の予測値は上方修正されたが、民間住宅や民間在庫品増加の予測値は下方修正されたため、先週の予測から変化なしである。

CQM予測の動態：実質GDP成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<9月短観販売価格判断DI、卸売・小売5年ぶりプラスに転じる。消費増税の価格転嫁には追い風。>

先週(9/30-10/4)に更新されたデータは、9月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、8月の労働力調査、毎月勤労統計、一般職業紹介状況、鉱工業指数、家計調査、商業販売統計、建築着工統計及び7月の建設工事費デフレータである。また日銀短観9月調査が発表された。これらのデータは民間住宅、民間企業設備、民間在庫品増加、公的在庫品増加、雇用者報酬及び主要デフレータの予測に影響を与える。

8月の建設工事費予定額(居住専用)は前月比+0.3%増加し、2ヵ月連続のプラス。しかし、実績は事前予測を下回ったため、7-9月期の実質民間住宅の予測値は先週から小幅下方修正された。

8月の資本財出荷指数は前月比+2.0%上昇し2ヵ月連続のプラス。8月実績は事前予測を上回ったため、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。

8月の最終需要財在庫指数は同-1.7%と2ヵ月ぶりに低下した。実績は事前予測を下回った。このため、7-9月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から下方修正された。

日銀9月短観の販売価格判断DIを業種別にみると、注目すべきは、卸売、小売が2008年9月調査以来プラスに転じたことだ。景気回復を背景にデフレ脱却が緩やかに進みつつある。消費増税の価格転嫁には追い風といえよう。

今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.7%と予測する。純輸出の寄与はゼロとなるが内需の寄与は前期から加速する。今週は、民間企業設備と公的在庫品増加の予測値は上方修正されたが、民間住宅や民間在庫品増加の予測値は下方修正されたため、先週の予測から変化なしである。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690